

# 副腎腫瘍の鑑別におけるCT/MRIの有用性の検証

## 【はじめに】

副腎腫瘍は、一般の方でも4-10%に偶然見つかるので、決して稀ではありません。心配の少ない腺腫という良性の腫瘍が多いのですが、悪性の腫瘍と正確に区別しないといけません。副腎腫瘍は、CTやMRIという画像で診断していますが、まだよくわかっていない部分も多いです。そのため、これまでの画像をしっかりと見直して、副腎腫瘍を診断するポイントを明らかにしたいと考えています。

## 【対象】

2001年4月1日より2012年12月31日の間に、九州大学病院にて副腎腫瘍で造影CTあるいはMRIを撮られた方(約200例)を対象とします。

## 【研究内容】

副腎腫瘍のCTおよびMRIの画像を見直して、その所見を拾い上げて、腫瘍の種類別に比較します。特に、良性と悪性の違いについて重点を置いています。腺腫(正常な腺細胞に変異が起きて規則的に増えたもの)と過形成(正常細胞が塊となったもの)という良性の腫瘍では、病理のプレパラートも見直して、細胞が違うと画像がどう変わるのかも見る予定です。副腎腫瘍の診断におけるCT/MRIの有用性を明らかにしたいと思っています。

## 【患者さんの個人情報の管理について】

本研究の実施過程及びその結果の公表(学会や論文等)の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

## 【研究期間】

研究を行う期間は承認日から2015年3月31日まで

## 【医学上の貢献】

診断能が良くなることで、副腎腫瘍に対する対処法や治療方針の決定に役立つと考えられます。

## 【研究機関・組織】

九州大学大学院 医学研究院 臨床放射線科学分野 教授 本田 浩  
九州大学病院 放射線科 助教 西江 昭弘  
九州大学病院 放射線科 助教 浅山 良樹  
九州大学大学院 医学研究院 分子イメージング・診断学 助教 高山 幸久  
九州大学大学院 医学研究院 臨床放射線科学 助教 藤田 展宏  
九州大学大学院 医学研究院 形態機能病理 准教授 相島 慎一

連絡先: 〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1 Tel:092-642-5695 担当者:西江 昭弘